

徳 朋

ぼんぶ
凡夫ということ

中川 皓三郎
こうざぶろう



なかがわ こうざぶろう
1943—2020
大阪府出身。元大谷大学短期大学部教授。元帯広大谷短期大学学長。

私たち自身はここに人として生まれ、生きているのですが、本当に何がしたいのか。そのことを私たち自身が自分の事として、はっきりさせるということが、今求められているといってもよいと思うんです。自分の一生を捧げても悔いはないというような本当にしたいことを見つけていますか。そういうことから言えば本願とは、本当にしたいことと言ってもいいんです。だから如来の本願によって私たち自身が本当にしたいことは何か、と教えられるわけですね。単に私のしたいことではなしに、いのちそのものが本当に願っていること、それがいったい何なのかということをお教えください。そして教えられることによって、いのちの願いを生きてゆくところに真宗の教えがあるんです。

私は自分の息子が問題を抱えていた時、私自身がお縁をいただいている先生のところにお訪ねしたことがありました。そのとき先生は口を酸っぱくして、「おまえの思いどおりにはならないのだぞ」と言われました。私はそばで聞いていまして、そうだそうだとうなずいていたのですが、その部屋を出まして、息子におまえわかっているのかと聞いたら、ひとこと「そんなことわかっるとるわい」と言いました。確かに言われれば分かるということはあるのです。しかし、なかなかうなずくことはできません。(中略)『観無量寿経』に出てくるアジャセという

人物を知っておられるでしょうか。自分の父を殺し、母を殺そうとした人なのです。そのアジャセに対して釈尊は「王今貪酔せり。本心の作せるにあらず」と言っています。貪酔というのは、むさぼりですね。あなたは食りの心に酔ってしまって正気を失い、父を殺してしまったのだ。「本心の作せるにあらず」。だからこそ正気を取り戻しなさいと、このように言われているんです。現代を生きている私たちは、みなこのアジャセと同じなのです。自分中心に、ひたすら自分の思いにかなうことを追い求める、それが貪酔です。人間の心を失って、いろんな問題を引き起こしている。だから本心を取り戻しなさいというわけです。(中略) このように私たちはひたすら自分の思ったとおりの生き方をしたいわけです。それが凡夫といわれるものです。じゃあ、それが本当にしたいことなのかというと、違うのです。なぜなら必ず死んでいかねばならないという事があるからです。自分の限界を忘れて生きる限り、満たされる事はないのです。だから死んでいく事をよく見るという事が大切な事で、そのことによって、思い通りにならないという事が初めてわかるわけです。

『生きるとは』



私たちが「したい事」と「本当にしたい事」は全くの別物です。「本当にしたい事」は、いのちの存在そのものの願いなので、それに気付けなければ、一度きりの人生に満足していきません。その気付きを促すはたらきが仏の教えです。(哲弘 拝)



この「徳朋」は仏教を拠り所としている方々の言葉に直に触れ、この身で感じる事を願いとして毎月作成しています。多少難しい表現もあるかと思いますが、頭で分からなくても構わないので気にせず読んでみて下さい。